

# 5/16 (土) 毎日新聞「今週の本棚」で 木村晋介さん・著者インタビュー掲載！

## 『句集のやうな』 木村晋介 著

### 17文字の世界を 自在に駆ける 初句集

ユーモアと哀歎あふれる 142句。  
俳句とエッセイで2度楽しめる！



宮部みゆき さん、夢枕獯 さんも絶賛

- ◆新潮社 WEB マガジン「yomyom」  
宮部みゆきさんの人気連載「ほんほん彩句」で、  
『句集のやうな』収録句をもとにした小説を掲載中！
- ◆『本の雑誌』7月号に広告掲載予定。

ご注文はJRCへ FAX: 03-3294-2177 (TEL:03-5283-2230)

●JRCより全ての取次への出荷が可能です。●返品は長期でお受けします。(了解者: JRC 宮尾)

番線印	注文数	句集のやうな 木村晋介著
	冊	
ご担当: _____ 様	注文日	四六判 / 並製 / 300頁 / 定価: 2750円 (本体2500円 + 税10%) ISBN978-4-911090-40-4 C0092
	／	

句集のやうな 朔出版・2750円

著者  
木村晋介さん



「悪友の骨を持つ闇の瓶は  
いっ／＼と老いをは流れ解散  
鱈／＼と妻ですか虹の水替  
へしてをります」  
地下鉄サリン事件の被害者  
支援に長年取り組んできた弁  
護士でエッセイスト  
としても活躍し、落  
語や将棋などを愛好  
する多趣味人が引継ぎにして初  
の句集を刊行した。

美しいが、読むのに疲れる。  
エッセイとのコラボで句の鑑  
賞をより豊かで楽しいものに  
したいと考えた。収録数が  
絞られるので、納得のいく作  
品(142句)で構成できる  
利点もあったと振り返る。  
俳句を始めしたのは15年ほど  
前。反骨精神と反戦を貫き、  
排句界で権威ある蛇務眞に師  
いた大牧広氏に師事した。大  
牧氏が死去した翌年の2009年  
に弟子たちが中心となって俳  
句団体「牧」を設立し、その  
自身の作風については「も  
ともと都々逸から入ったの  
で、写生よりユーモアを大事  
にするところがある」。毎日  
そんな本書を絶賛  
する作家の宮部みゆきさん  
は、俳句をお題に短編を書く  
「ほんほん彩句」シリーズに  
「ほん」と用いる日記三冊買  
ふ」を取り上げ、新潮社のW  
EB文芸誌「yomyom」で  
12月から連載が始まった。思  
わぬ小説化に夢のようであ  
す。文・田中洋之  
写真・宮本明登

20〜30句をつくるが、「これ  
はどうのが三つあればいい  
ほう。短く削っても言葉がと  
げとげせず球体のように丸く  
なる俳句を目指しています」  
「僕にとって戦争だった  
という地下鉄サリン事件から  
31年がたち、理事長として被  
害者のケアを行ってきたNFP  
Q法人は昨年解散した。それ  
でも地下鉄に集れぬ人々の  
彼岸前の句には後遺症が今  
なお残る実情が浮か  
ぶ」

◆木村晋介(きむら しんすけ)  
1945年、長崎生まれ。弁護士として地下鉄サリン事件の被害者  
を支援し続け、エッセイストとしても活躍。著書に、『キムラ弁  
護士が駆けてゆく』『長崎ルパン物語』『サリンそれぞれの証』  
(以上、角川文庫)、『九条の何を残すのか』(本の雑誌社)など  
多数。平成23年から俳句を始め、俳誌「港」で大牧広に師事。  
現在、同人誌「牧」編集長、城北句会代表。